

看護研究「膀胱留置カテーテル挿入による弊害の調査」に対するご協力をお願い

研究者：社会福祉法人^{徳島県}済生会松山病院 看護師 金子拓磨 北中亜美 清水真莉

私たちは、当院倫理審査委員会の承認（S23-10号）を得て、この度「膀胱留置カテーテル挿入による弊害の調査」というテーマで看護研究に取り組む運びとなりました。下記へ研究目的、研究方法、倫理的配慮等の研究計画の概要をお示しします。

本研究は、2022年6月から2023年5月末日までの期間に入院されていた患者さんの診療情報等を収集し、分析するものであり、新たに患者さんにご負担をお掛けするものではありません。

本研究へのご理解を賜りますようお願い申し上げます。なお、本研究への参加を望まれない場合は、この掲示の後方に記載している連絡先までお申し出ください。

研究計画の概要

1. 研究名称 「膀胱留置カテーテル挿入による弊害の調査」

2. 研究背景・研究目的

私たちは、内科系の混合病棟で勤務しています。入院中に膀胱カテーテルを留置している患者さんの看護ケアも行っていますが、その中で膀胱留置カテーテルの挿入に起因した尿路感染や排尿障害により治療の延長することがありました。また、それに関連した退院の延期、またはせん妄症状の出現や認知機能が低下する患者さんもいました。そこで、どのくらいの入院患者さんが膀胱留置カテーテルを挿入しているのかデータを集めたところ、1ヶ月に20名程度の患者さんが膀胱留置カテーテルを挿入されていました。

当院では2017年から排尿ケア委員会が活動をしており、病棟でも同時期から排尿ケアカンファレンスを設け、膀胱留置カテーテルの早期抜去や排泄方法の検討等の介入や支援方法を検討し、看護ケアに繋げています。

本研究では、膀胱カテーテル留置に起因したと推測される排尿障害が発生した入院患者さんの診療情報等を観察研究することにより、膀胱留置カテーテル挿入による弊害を明らかにし、発症予防の取り組みに繋げていきたいと考えています。

3. 研究期間 2023年10月～2024年8月

4. 研究対象者と対象となる情報

2022年6月1日～2023年5月31日の入院患者さんのうち膀胱留置カテーテルを挿入していた患者さんの診療情報記録および看護記録

5. 研究方法

対象期間における対象患者さんの診療情報等から以下のデータを収集し、その規則性や特徴について分析を行う観察研究とする。

膀胱留置カテーテル挿入中に尿路感染症を発症した患者さんと、膀胱留置カテーテル抜去後に排尿障害(尿閉)が起きた患者さん別に以下のデータを収集します。

1. 疾患名	2. 性別	3. 年齢
4. 膀胱留置カテーテル留置期間	5. 日常生活動作	6. 認知機能障害の有無
7. せん妄の有無	8. 尿閉発症の有無	9. 入院日数
10. 泌尿器科受診歴	11. 導尿の有無	12. 膀胱留置カテーテル再挿入の有無
13. 挿入時期(院内、院外)	14. 留置理由	

6. 倫理的配慮

(1) 予測される危険や不利益

本研究ではすでに退院された患者さんの入院期間中の診療情報等を収集するものであり対象者に新たなご負担をお掛けするものではありません。

(2) 研究参加への自由意志の尊重

本研究への参加は自由意志であるため、研究参加を望まれない場合は、この掲示後方の連絡先までご連絡をお願いします。研究参加を拒否された場合も、拒否された患者さんに不利益となることはありません。研究参加への拒否のお申し出がなかった場合には、承諾が得られたものとさせていただきます。

(3) 個人情報の保護について

診療情報等の収集するデータはナンバリングして扱いますので、個人が特定されることはありません。研究発表に際しても、同様に個人が特定されることはありません。また、個人情報が漏洩することがないように研究中のデータは研究者が責任を持って保管管理します。本研究が修了した際には、倫理基準に従いデータは再現されない方法にて破棄します。

7. お問い合わせ等の連絡先

社会福祉法人^{徳島}済生会松山病院

看護部 看護部長 東良子 副看護部長 武島孝子

電話番号 (089) 951-6111